

ポレポレ 倶楽部 通 信

おばあちゃんやおじいちゃんと

混ぜり合わない!ともったいない!



「安武保育園」と「老人いこいの家」は真向かいにあります。8月23日(土)安武保育園の夏祭り当日、お母さん達が準備で忙しいので、小さい子ども達を地域のおばあちゃんやポレポレの若いスタッフが一緒になって「老人いこいの家」でお世話することにしました。子ども達が楽しめるように「やきもちづくり」と「だんごづくり」をすることになりました。普段こんなことをしないポレポレの若いスタッフ、若いお父さん達は作るのに必死でした。改めておばあちゃん達の手際よさにみんな感動しました。自分達で丸めたや

きもちやおだんごを食べて本当に大満足。おばあちゃん達は準備で疲れたお母さん達のために、おにぎりもたくさんにぎってくれて、その心遣いに感謝!感謝!でした。

安武校区にはおばあちゃん、おじいちゃんという有能な「人的資源」がいっぱいです。「三原さん家」が「混ぜり合おう」として6年が経ちました。おばあちゃん、おじいちゃんから学んだり、助けてもらったりしないともったいないのではと、少しずつ若者達が感じはじめています。

.....目 次.....

- 2p 成年後見制度を学んで
- 3p ポレポレ倶楽部研修 「にしはらたんぽぽハウス」を訪ねて
- 4p 「でてこんの」活動報告
- 5p 災害に備えて「日頃からの災害対策」
- 6p 多世代混ぜり合いチーム YSKスクランブル誕生
- 7p 本当の混ぜり合いをめざして ~ポレポレ祭り最少年実行委員長に就任して~
- 8p お知らせ 第13回 ポレポレ祭り

成年後見制度を学んで

保護者会研修から

保護者会で、成年後見制度の学習をすることになりました。

法に基づく制度を利用することによって、障がい者本人の権利が守られ保障されることはとても大切なことです。またこの制度は障がい者だけではなく、高齢化社会の中、全ての方に必要となってくるのではないのでしょうか。

成年後見制度は、判断能力の不十分な障がい者を守るための、必要不可欠な制度であるということに改めて強く思いました。

成年後見制度には法定後見制度と任意後見制度の二つがあることがわかりました。

- 法定後見制度とは、判断能力が不十分な人を法律的に保護し支えるための制度。
- 任意後見制度とは、将来自分の判断能力が不十分になった際に、援助してもらう後見人を前もって指定し、援助してもらう内容についても、前もって具体的に定めておく制度。

さらに、法定後見制度は、判断能力の程度など本人の事情に応じて3つに区分されていることもわかりました。

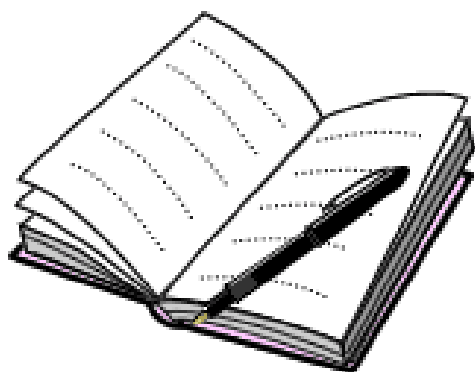
- ・本人の判断能力がほとんどない場合・・・後見
- ・本人の判断能力が著しく不十分な場合・・・保佐
- ・本人の判断能力が不十分な場合・・・補助

どの区分になるかは医師の鑑定などによって決められ、自由に選べません。診断書などによって本人がどの区分かの目安はわかるようです。

くわしい流れや手続きなどは、各個人が良く勉強して進めていくとしても、親の高齢化に伴う現状を考える時、障がい者本人には法定後見制度を、親は任意後見制度の利用が望ましいと強く感じたところです。そして「エンディングノート」を書いておくことを薦められました。エンディングノートとは、病気や事故によって自分の意思や判断ができなくなったときに備えて、自分の考えをノートに書いておき家族や友人などに知ってもらうものです。早速エンディングノートを買って

きて、今少しずつ記入しているところです。この作業をすることによって、これからの自分や障がいを持った娘の将来をどう設計していくのか、改めて考えていく機会になっています。

(ポレポレ 保護者 松尾 絃子)



エンディングノート

「にしはらたんぽぽハウス」を訪ねて

7月30日、大自然阿蘇外輪山の一角、俵山の麓にある「NPO法人 にしはらたんぽぽハウス」を訪問する機会を得ました。ポレポレ倶楽部と安武校区社協の32名が参加しました。

大自然の中の小さな町の一角、消防署・警察署・役場など地域の主な施設が集合している場所に廃校を利用した、たんぽぽハウスがありました。ハウスが開設されたきっかけは、熊本県の事業として村の社会福祉協議会に呼びかけ、村民参加のワークショップを実施。当時、ばらばらに活動していた障がい者団体をひとつにまとめようと地域一体となって多くの人々が話し合ったことで誕生しました。そして「バリアのない西原村づくり」を合言葉に「心づくり・仕事づくり・居場所づくり」のテーマのもと、平成17年に小規模作業所として5名の利用者とスタートしました。

現在は、NPO法人として利用者も知的・精神・身体障がいのある人など22名が登録。他に生活保護の人・生活困窮者・アルコール依存症の人・更生中の人などが週2~3回ボランティアとして通っており昼食を提供しています。また、必要な人には一日200円で朝食と夕食も出しています。

仕事としては、4町の畑、3反の水田を耕作しており、そこでの農作業、加工品作り、販売などです。当然のことながら、法人関係者だけでは広大な土地の耕作はできず、地域の人たち、企業、保育園児から中学生まで多くのボランティアが訪問交流をしながら支援を行っています。夏場になると熊本市内のホームレスの方も草取り応援隊として来ています。その支援体制が地域をあげてシステムとしてしっかり回っていることに感心しました。

耕作した農作物（米、ゴマ、落花生、小豆、大豆、サツマイモ、しいたけなど）を自ら加工し販売するという農業の6次産業がはからずも確立されています。竹林ごと筍の無償提供があったり、規格外イチゴを買い受けてお菓みに製品化したり、アイデアとたゆまぬチャレンジ精神で運営され、インターネットなども駆使しての販売は驚くばかりです。

また、地域活動支援センターの役割も担っており、偏見の強い地域での複雑な福祉的課題に対して、各専門機関等と連携しながらみんなの課題と捉え、協力しながら解決していること、住民同士仲間として一緒に悩み、手助けすることをモットーにしていることなど深く感動しました。

(ポレポレ 保護者 園田 靖夫)



「でてこんの」活動報告

みなさまの温かいご支援を受け「でてこんの」の活動は、おかげ様で3年目を迎えようとしています。平成24年4月に障がいを持っている人や高齢者の移動送迎等を目的として「住みよい地域づくり」の理念のもとに、スタートいたしました。

最初はいろいろ議論しましたが、まずは実行してみようと手探り状態で始めました。運営委員・賛同者・利用者みなさま方のご理解とご協力を持ちまして無事に2年半が経過しました。この間、運転者の方々は親切・丁寧に、大きな事故もなく運転をしていただいております。利用者みなさま方には、お互いが気持ちよく利用できるように時間の調整や相乗りの協力等、進んでご協力いただいております。これは、何と云っても、コーディネーターの陰の力があってこそのものであります。

「でてこんの」の利用内容ですが、①病院への通院が8割、②買物・美容室・散髪、③温泉・お寺・JRや西鉄駅等公共交通機関までの送迎などです。

また、利用者の声として

- ① 気軽に早く病院に行けたため、病気が早く治り入院もせずに経済的だった。
- ② 公共交通の便が悪い所へ早く行けて助かった。
- ③ 何と云っても戸口から戸口までの送迎で、外出が楽になった。
- ④ 相乗りで知り合ったお友達と楽しくお話ができてよかった。

等が聞かれます。とてもありがたいことです。

しかしながら、今まで順調に活動してきましたが、国の道路交通法（自家用有償旅客運送）との整合性や、運転者の高齢化と人員不足、運営資金不足、大事故発生時の保険金を上回る補償金の支払い問題等の理由から、今後の運営を変更せざるを得ない時期がきております。

そこで、社会福祉法人拓くの常務理事馬場さんをはじめ、法人のスタッフや「でてこんの」事務局長筒井さんと数名で久留米市役所の関係各課と話し合いを継続しているところです。現在実施している無償運送に関して、以前久留米市より指摘を受けた経緯もあり今回久留米市に相談を持ちかけました。なかなか良い結論は出ていませんが、現在進めているのは、「タクシーを30分間貸し切り、相乗りをコ



ーディネートする方法」です。これもいろいろな法的な問題があるので、双方検討中です。時間もかかりますが、来年度(27年4月)から新方式に移行する予定です。

(「でてこんの」事務局 野間口保之)

災害に備えて「日頃からの災害対策」

「50年に1度の超大型台風が九州上陸…」と連日報道され、特別警報まで発表された台風8号。日本各地に大雨が降り各地に大きな被害がありました。

台風接近の数日前から、頻りに情報収集と対策会議を重ねて備えました。一昨年の経験をもとに、災害対策本部の設置から判断までの手順とスケジュール、利用者のみなさんやスタッフへの連絡方法についてはマニュアル化が進んでおり、円滑に行動することができました。超大型の台風ということで、ライフラインや情報・交通網の遮断も想定し、緊急時に「命を守る」ための状況判断ができるように「出会いの場ポレポレ」、「夢工房」、グループホーム「ニユンバ」、「チェムチェム」に各責任者が泊まり込み備えました。今後の緊急対策の指針となりました。また、最接近当日に勤務予定のスタッフも、近くに住むスタッフの家に前泊するなど、自分たちで考え行動しています。

台風8号は幸いにもほとんど影響ありませんでしたが、今後も「空振りでもいい」、「非常時となっても日常以上の力はでない」という危機管理意識を持って、災害に備えていきます。

今回のように風水害は、事前に準備ができますが、火災や地震はいつ起こるか分かりません。突然起こりうる災害に対応できるようになるためには、常日頃から訓練や物品管理などの対策が必要です。メンバーの日中活動場所やグループホームでの様々な災害を想定した避難訓練、ガスや電気がない状態での非常食づくり、自家発電機等の被災時に使用する機材の動作確認とメンテナンスなど取り組んでいます。

また、今後は、日中活動場所やグループホームを、近くに住む利用者家族や地域住民の福祉避難所として位置づけすることも考えています。

災害時を想定し、非常食を準備しています

今回、台風8号接近に伴い、ポレポレでは、当日の昼食の支度にガス、電気が使えなくなることを想定して、普段から備蓄しているカセットコンロや非常食を使って準備しました。メニューは、お湯や水を入れるだけで50食分が15分でできるアルファ米とレトルト食品のハヤシライス、お湯を入れるだけのスープ、缶詰フルーツでした。非常時に食べられるものは、実際の場面では限られてきます。そのために、日頃から非常食を準備したり、提供できるように訓練したり、そして食べ慣れておくことが非常時の際に命を守ることに繋がると思います。



多世代混ざり合いチーム YSK スクランプル誕生

70代・80代の方が地域を担っている！

毎年7月になると、安武地域で「多世代グランドゴルフ大会」が行われます。今年は天候に恵まれず中止となったのですが、その夜の打ち上げは盛大に行われました。会が盛り上がり、話はポレポレ祭りの話題となり、「多世代でチームをつくり、祭りのイベントに参加しよう」となったのです。ここから、一大プロジェクト(?)が動き出しました。

初めに、チーム名を何にするか、みんなで話し合いました。地域の多世代の方々、ポレポレの障がいのある利用者も含めて混ざり合おうということで「スクランブル」。ただ、これだけではインパクトもなく、みんなに覚えていただけません。そこで今流行りのAKBからヒントを得て、「やすたけ」をもじってYSK。これにはYは「ヤング」 Sは「シニア」 Kは「こども」という意味もあります。この二つを組み合わせ、**「YSK スクランプル」**と、チーム名が決まりました。

出し物は、打ち上げのカラオケで盛り上がった「青い山脈」です。中心メンバーは70代の方々と、みなさんの青春時代の曲です。

打ち上げの中で、年輩の方々の力強さに驚かされるのがたくさんありました。若い私達よりキレのある踊り、一度踊り終わると息切れしているにもかかわらず、すぐにお酒を飲み、その飲みっぷりときたら庄巻の一言です(笑)。みなさん、時間が経ちお酒がはいるにつれ、パワフルになります。そんな先輩方に私達が逆にパワーをもらっています。こうして楽しく練習をしながら初舞台に向けて頑張っています。デビューステージは、9月27日(土)の安武祭り、本番はポレポレ祭りです。「衣装は」「髪型は」と、みんなだんだん真剣になってきています。

今回のことを通して改めて、年配の方々の楽天性、粘り強さ、きちんと責任を持って進められる仕事ぶり、そして、何よりも相手を思いやる心遣いなど、若い僕たちが負けていることばかりです。世の中、年配の方々がいなくなったら、成り立たないのではないかと初めて実感しました。



『青い山脈』はさわりで、若い僕たちが先輩方から学ぶこの一大プロジェクトをこれから本格的に進めていきたいと思います。

(ポレポレスタッフ 児玉 元気)

本当の混ざり合いをめざして

・・・第13回ポレポレ祭り 最年少実行委員長に就任して・・・

ポレポレ祭り実行委員長の小川です。高校を卒業してポレポレに勤めて7年目、この7月で25歳になりました。ポレポレ祭りは13年という長い年月、参加者3000人という規模で続けられてきたことはすごいことであり、それは毎年1000人近くの方々が協力して下さっているおかげだと少しずつ分かり始めました。そんな大舞台を、ぼくがこの1年リードし創っていく立場になり、やりがいも誇りも感じています。

今年はスタートを早めて3月から取り組んできました。目に見える効果はないかもしれませんが、地域の人たちの一人ひとりに声をかけたり、一緒にイベントの練習をしたり、何回か飲み会をしたりして、少しずつつながりができ、助け合えるようになっていきます。

また、『混ざり合う』というのは、簡単なようで実は難しいことなのだと感じています。僕も最近までは、当日祭りに参加してもらえるだけで、混ざり合えると思っていました。しかし、本当に混ざり合うためには、その場限りではなく常日頃から関わりを持ち、相手のことを考えられることだと思うようになりました。

今年は聴覚障がいの方や医療的ケアが必要な方にも来ていただけるように取り組んでいきます。実行委員会には聴覚障がいがある方にも参加していただいています。最初は、全く配慮ができていませんでしたが、顔が見えるように机の配置を考え、発言者は手をあげ、話すスピードをゆっくりするなどルールを作りました。各係でも少しずつですが、配慮できることに知恵を絞りながら進めています。例えば会場係では、休憩するスペースをどう確保していくか、スケジュールなどを画面に映してお知らせできるよう準備しているところです。

イベントでは、地域の方やポレポレの利用者のみなさん、スタッフが混ざり合い祭りを盛り上げたいと思います。また、今年は福島のご当地ヒーロー相双神旗ディネードとポレポレの利用者のみなさんとのコラボを企画しています。バザーブースも、各団体が混ざり合って出店をしていきます。

祭り当日に向けて、混ざり合いの意義を考えながらもっと深めていけたらいいと思います。そこで何か新たな発見があることを期待しています。

(ポレポレ スタッフ 小川真太郎)



第13回 ポレポレ祭り

テーマ「だてん まざりあおう part2」

(誰でも)

(とき) 2014年 10月 26日(日) 9:45~15:00

(ところ) 出会うの場 ポレポレ

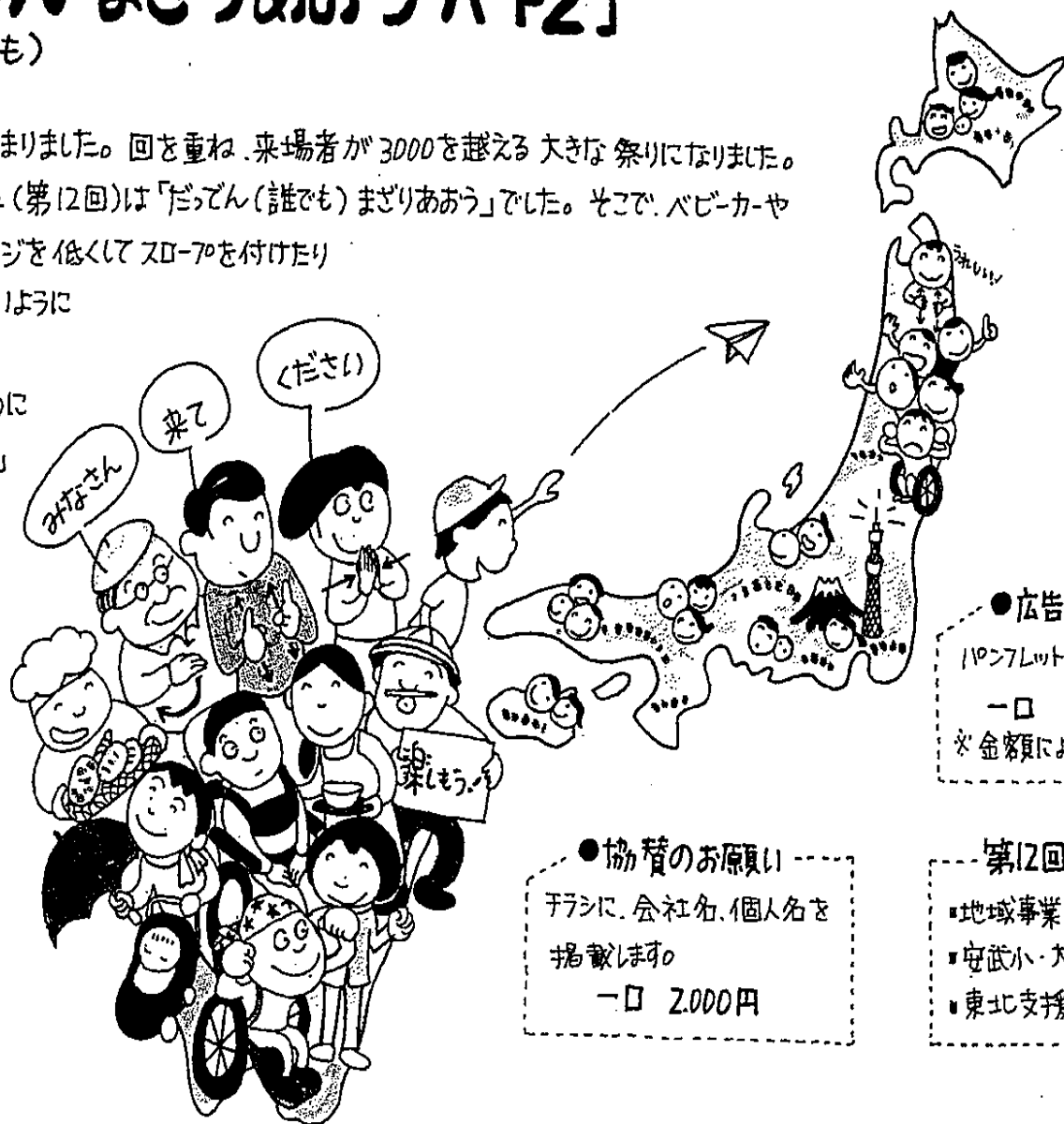
ポレポレ祭りは、2002年秋に始まりました。回を重ね、来場者が3000を超える大きな祭りになりました。祭りには毎年テーマがあり、昨年(第12回)は「だてん(誰でも)まざりあおう」でした。そこで、ベビーカーや車イスの方が参加できるように、ステージを低くしてスロープを付けたり会場が混雑している中でも通りやすいように通路を広くしました。

今年ももっとまざりあいを深めるために「だてん(誰でも)まざりあおう part2」に決まりました。

聴覚障がいのある方、身体的ケアが必要な方も参加しやすい祭りにしたいと思っています。

また、被災地・東北の方々にも3年続けて祭りに参画していただいております。4年目の今年は、東北の方々とポレポレの利用者の方々と一緒にイベントも考えています。

つきましては、「第13回ポレポレ祭り」に多くの皆様のご参加とご協力をお願い申し上げます。



●ボランティアのお願い

- ・祭り実行委員会への参加
- ・当日、販売のお手伝い
- ・手芸品など手作りの提供

●ガレージセール用品のお願い

- ・ご家庭にあるガレージセール用品を提供してください(未使用のものに限ります)

●広告のお願い

- ・パンフレット(A4)に、会社名・個人名を掲載します。
- ・一口 3,000円～
- ・※金額により、広告表示のサイズが変わります

●協賛のお願い

- ・チラシに、会社名・個人名を掲載します
- ・一口 2,000円

●第12回の収益金(用途)

- ・地域事業「でここの」
- ・子エム子エムへ寄付
- ・安武小・大善寺小・筑邦西中学校へ寄付
- ・東北支援(第13回への繰越金あり)